

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



7月号 発行 平成27年7月23日

「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」いわき地方推進本部平成27年度総会の開催

7月3日(金)、県いわき合同庁舎において、「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」いわき地方推進本部平成27年度総会を開催し、構成員等37名が出席しました。

「新生運動」とは、本県農林水産業の東日本大震災からの復興を成し遂げるため、生産から流通・消費に至る様々な立場の人々が一体となって推進する運動です。

まず、いわき地方推進本部長であるいわき農林事務所松本所長からあいさつがあり、引き続き、議題である平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画(案)について事務局から説明を行い、構成員から承認されました。

その後、いわき市漁業協同組合勿来支部青壮年部長の高木完昇(さだのり)氏が「いわき地区の試験操業及び漁業技術研修について」、いわき市農政課の大和田克彦事務主任が「『いわき野菜アンバサダー制度』について」と題した事例報告を行いました。高木氏からは、現在の水揚げ量は震災前の2%であるが順調に増加していること、大和田事務主任からは、アンバサダーが増えるほど情報の発信量が増え、情報自体の信ぴょう性が増すこと等の報告がありました。

さらに、構成員による意見交換が行われ、農業関係者からは「子供や都会に住む方に農業に関心を持ってもらい、安全・安心をPRしていきたい」、商業者からは「震災前と比較して取扱量は回復したが単価がまだ回復しきれていない。いわき産野菜を全国に供給できる体制づくりを整えたい」といった意見が寄せられ、有意義な会議となりました。



(あいさつを述べる松本所長)
(企画部)

「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議」の開催

7月1日(水)、県いわき合同庁舎において、いわき市、JA全農福島、JAいわき市、JAいわき中部、いわき農林事務所が一堂に会し、「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議」を開催しました。

本会議は、東日本大震災及び原子力災害の影響により、厳しい状況におかれているいわき地方の園芸産地の復興を目指して開催しています。

会議では、「園芸産地復興計画」プロジェクト品目として掲げた「いちご」、「ねぎ」、「日本なし」の昨年度の活動実績と今年度の活動計画について、積極的に意見を交換しました。共通課題としては、担い手の確保や生産基盤の整備が意見として挙げられ、施設等の整備に係る事業活用も含め、各品目の作付けの推進をより強化していくこととしました。

また、昨年度実施した梨加工研修会をきっかけに、「いわき梨」を原料としたカレーやワインなどの新たな6次化の取組が始まることが報告されました。



(今後の園芸振興について話し合い)

(農業振興普及部)



いわき市営農推進会議の開催

6月4日（木）、JAいわき市において、「いわき市営農推進会議」を開催しました。

本会議は、いわき市、JAいわき市営農部各課、いわき農林事務所農業振興普及部の職員が一堂に会して、管内の農業振興の方針や各活動の連携について情報を共有し、協議するために毎年開催しています。

会議では、関係機関の各部署から平成27年度の農業振興の方針や主要事業について説明が行われ、出席者から各事業等に対する質問や意見が出されるとともに、協力内容等について協議しました。

今回は、特に米の全量全袋検査や緊急時環境モニタリング、市が実施している自主検査の取組について活発な意見が出され、まだまだ風評対策の継続が必要であると改めて確認しました。

今後も、いわき農林事務所では、震災からの一日も早い復旧・復興のため、営農対策や風評対策について、関係機関と連携しながら活動を展開していきます。

（農業振興普及部）



第13回治右衛門の堰「あじさい祭り」の開催！

7月2日（火）、いわき農林事務所が後援する愛谷江筋愛護会主催の第13回治右衛門の堰「あじさい祭り」（「愛谷江筋はどこから流れてくるのかな？」）が開催されました。

このあじさい祭りは、地域の農業水利施設についての学習を通して、施設の重要性を知ってもらうことを目的として毎年開催されており、今年はいわき市立夏井小学校の4年生17名が参加しました。

児童たちは、大型バスに乗って愛谷頭首工、北白土除塵機・新川サイフォン、大越藤間第二排水機場を見学するとともに、維持管理の一環として愛谷江筋沿いのアジサイ散歩道のゴミ拾いを行いました。バスの移動や農業水利施設を見学する中で、愛谷堰土地改良区の菅波事務局長より、農業水利施設の果たす役割や施設についての説明を聞き、児童たちは積極的に「サイフォンってどういう仕組みなの？」等の質問をして知識を深めていました。

児童たちは、頭首工や排水機場のポンプの大きさに驚いたり、実際に機械の操作を体験するなど、普段の学校の授業では学べ

ない、地域の農業水利施設の大切さについて理解を深めていました。



（菅波事務局長がサイフォンの仕組みを実演）



（大越藤間第二排水機場の様子）
（農村整備部）

平成27年度いわき地方農薬適正使用推進会議の開催

6月25日（木）、県いわき合同庁舎において、いわき地方農薬適正使用推進会議を開催しました。

本会議は、いわき地方における農産物生産の農薬適正使用を推進し、消費者に安全・安心な農産物を提供することを目的として毎年開催しています。

昨年度より残留農薬の新しい評価方法である短期暴露評価が導入されたことにより、従来より厳しい基準となるため、農薬を使用する生産者の方が混乱しないよう関係者間で情報の共有を行いました。

また、農薬の目的外使用による事故の未然防止に向けた留意事項の周知、栽培履歴の記帳の推進、万一の事故時における出荷停止や事後対策などについて、関係機関と役割を確認しました。



（会議の様子）
（農業振興普及部）



「ふくしま食育実践サポーター」 による食育活動について

6月10日（水）、いわき市立汐見が丘幼稚園において、ふくしま食育実践サポーターによる食育活動が行われました。

「ふくしま食育実践サポーター」とは、食生活や栄養、食文化、食の安全・安心など「食」に関する分野において、自らの知識や経験を活かして食育活動を支援する方々をいいます。

今回の食育活動は、園児達が週に3日は弁当を持参していることから、保護者の方々に「食」の大切さをもっと知ってもらうことを目的として、当幼稚園が実施したものです。

活動内容は、ふくしま食育実践サポーターの高萩多香子さんが園児及び保護者、幼稚園職員72名を対象に、朝食や様々な色の食べ物を食べることの大切さを、エプロンや人形を使い、園児の興味を引きつけながらわかりやすくお話ししました。

また、バナナ、ハム、チーズを使用したロールサンドや園児自身がちぎったキャベツや型抜きしたニンジン入りのスープを調理し、親子一緒に楽しく会食しました。



（エプロンシアターを使ったお話の様子）



（親子一緒に会食）

いわき農林事務所では、「食」に関する学校の授業や地域団体が実施するセミナーなどへサポーターを派遣しています。詳しくは福島県農産物流通課HPをご覧ください。

（HPのURL）

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035a/supporterseido.html>

（企画部）



松くい虫被害対策に 取り組んでいます！

マツは、他の樹木が生育しない痩せ地や海岸にも生育することから、土砂の流出や潮害などから住宅や農地を守るといった国土保全機能を有しているほか、木材やきのこといった林産物の生産や伝統ある景観を保全する重要な働きをもっています。

しかし、マツを枯らす松くい虫被害は昭和50年代より発生・拡大しており、現在ではいわき農林事務所管内の各地において被害が確認されています。

このため、「保全松林（将来にわたって健全な松林として維持していく松林）」を守ることを目的に、県といわき市が連携して被害対策を実施しているところです。

今年度も、6月4日（木）から17日（水）まで松くい虫被害を未然に防止する目的で、市が「松くい虫防除事業（薬剤散布）」を実施し、「勿来」や「四倉・大久」、「小名浜」、「新舞子」の4地区の民有林約190haでヘリコプターやスパウダーによる薬剤散布を行いました。

このほか、松くい虫被害木を伐採し、薬剤でくん蒸処理を行う「伐倒駆除」を春（5月～6月）及び秋（10月～2月）に実施し、被害の拡大防止に取り組んでいます。



（スパウダーによる散布作業（小名浜地区）
（森林林業部）

いわきねぎの産地見学会の開催！

6月15日（月）、市内のねぎ生産者の圃場において、産地見学会を開催しました。

いわき地方は、県内でも温暖な気候をいかして、様々な園芸作物が栽培されています。なかでも「いわきねぎ」は、明治時代から続く伝統のある作物ですが、震災や高齢化により生産者・栽培面積とも減少傾向にあります。

この見学会は、いわきねぎの産地復興に向けた取り組みの一環として、今年1月に実施した新規作付け説明会の参加者を対象に、地元生産者やJAの協力を得て開催したもので、今回は3名の方が参加しました。

参加者は、溝掘りから植え付けまでの一連の作業を見学し、「ひっぱりくん」という名称の農機具を使用して、定植作業を体験しました。併せて、いわきでは様々なねぎの品種が作付けされ、ほぼ一年中出荷されているとの説明を受け、参加者は見事に生育したいわきねぎを前にしきりに感心していました。

今後は、11月に2回目の見学会を開催し、収穫や出荷調製の方法などを見学していただく予定ですので、興味のある方はぜひお越しください。



(実際にひっぱりくんで植えてみました！)



(夏秋ねぎ圃場見学の様子です)
(農業振興普及部)

平成27年度いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議の開催

6月25日（木）、県いわき合同庁舎において、有害鳥獣被害防止対策会議を開催しました。

本会議では、各関係機関によるイノシシやハクビシン等による農産物への被害防止対策の取組について、意見交換を行い、協力して対策していくことを確認しました。

市内では、電気柵による侵入防止対策と箱ワナによる捕獲を行っています。個人による取組が多く、被害拡大を防ぐためには地域間の連携が必要となっています。

今後、いわき農林事務所では、電気柵の設置箇所の点検や被害防止対策に向けた研修会を計画しています。

(農業振興普及部)



福島県漁業士の認定式

7月10日（金）、水産会館において、漁業士の認定式が行われました。

漁業士には、青年漁業士と指導漁業士があり、青年漁業士は、青壮年部活動に積極的に参加し、今後中心となる活動が見込まれる40歳未満の漁業者で、また、指導漁業士は、優れた漁業技術や経営能力を持ち、後継者育成にも理解があり、かつ積極的な活動を行っている漁業者に与えられる称号で、福島県知事が認定するものです。

今年度は、新たに5名の青年漁業士と3名の指導漁業士が認定されました。いずれの方も本県の水産業振興のために活躍されている方々ですが、今回の漁業士認定を受け、さらなる活躍が期待されます。



(認定された漁業士の方々)
(水産事務所)



第1回「いわき野菜deベジスイーツ」の開催！

6月21日（日）、いわき農林事務所と
いわき市見せる課が後援するJAいわき市
直売所新鮮やさい館主催の「いわき野菜de
ベジスイーツ」が開催されました。

参加者の定員は30名でしたが、生産者
も含め総勢40名余りが参加し、大盛況と
なりました。

講師の野菜ソムリエの木下麻美さんか
ら、スイーツづくりに使用する野菜（小松
菜、かぼちゃ、トマト）のマメ知識をお話
しいただいたあと、カラフルお野菜白玉団
子やトッピング用のゼリーづくり、野菜の
型抜きをするなど、スイーツづくりを体験
していただきました。

参加した子供たちは、茹であがっていく
と色が鮮やかになり、お湯の中で浮かび上
がるカラフルな野菜の色に発色した団子を見
て、「おもしろい」や「不思議」などの
声が上がリ、興味津々な様子でした。トッ
ピング用のベリー類についても多くの種類
があることに驚いていました。保護者の方
からは、野菜を楽しく、おいしく、気軽に
食べられると好評でした。

また、生産者の方にも参加いただき、消
費者との交流ができてよかったとの感想も
いただきました。

この体験は、親子で直売所を訪れ、地元
の食材に興味をもっていただくよい機会と
なりました。

今後は、3回（10月、12月、2月）
の開催を予定しています。



（全員集合）
（農業振興普及部）



「Iwaki ロコモココンテスト」が 開催されました！

6月23日（火）、いわき市中央卸売
市場において、いわき地域の恵み安全対
策協議会主催の「Iwaki ロコモココンテ
スト」が開催されました。

これは、いわき市の農産物及び水産物
のイメージ回復や産業活性化を目的に、
平成27年度地域創生総合支援事業（サ
ポート事業）を活用して開催されたもの
です。

ロコモコとは、ハワイ料理の一つ（ご
飯の上にハンバーグや目玉焼きなどを乗
せた丼風のもの）であり、「Iwaki ロコモ
コ」は、いわき産コシヒカリ「Iwaki
Laiki」に「カジキ」とトマトなどの「い
わき産野菜」などを盛りつけた料理のこ
とを言います。

今回は、書類審査を突破した8団体の
二次審査が行われました。アクアマリン
ふくしまの安部館長やスパリゾートハワ
イアonzのダンシングチーム・リーダー
のモアナ梨江さん、いわき地方振興局の
大江局長ほか7名による審査が行われ、
湯本高校の「Lokomoko カジキ娘（湯高）
Style」がグランプリに選ばれました。

なお、8月から10月には「Iwaki ロ
コモコ」を提供している市内の店舗を周
遊する食べ歩きスタンプラリーキャン
ペーンを開催を予定しており、今回のコ
ンテストで上位に入ったメニューを提供
することとなっています。



（グランプリに輝いた湯本高校の
「Lokomoko カジキ娘（湯高）Style」）
（いわき地方振興局企画・商工部）

平成27年度管内農業農村整備事業担当者研修会の開催

7月1日（水）、県いわき合同庁舎において、いわき農林事務所農村整備部主催による管内農業農村整備事業担当者研修会を開催しました。

研修会には、いわき市農地課や管内各土地改良区の職員が参加し、間近に迫った会計検査に関する情報や新規調査地区の手続き、各関連事業の内容や申請方法、資料作成に関する留意点の説明について熱心に耳を傾けていました。

研修会終了後は、市、各土地改良区の抱えている課題について、農林事務所担当者と個別打合せが行われ、今後の管内農業農村整備事業の推進に向け有意義な研修会となりました。



（参加者へ事業等の説明）
（農村整備部）

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果

農林畜産物の放射性モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の6月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果（表1）をお知らせします。

（表1）農林畜産物の検査結果（6月末現在）

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
	1品目（※1）			
12品目	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	13品目
26検体	5検体	2検体	0検体	33検体

※1：ウメ

検査した13品目33検体のうち、12品目26検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表2）のとおりです。

（表2）1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

スナッフエンドウ 1、ニラ 2、ブルーベリー 1、ボイセンベリー 1、タマネギ 3、菌床しいたけ（施設） 4、菌床なめこ（施設） 2、ふき（野生） 1、はちみつ 1、豚肉 1、牛肉 4、原乳 5

また、ウメについては、2検体に100Bq/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は（表3）のとおりです。

（表3）基準値内で検出された品目と検体数

品名	検体数	（うち基準値内）	内訳	
			100Bq以下	検出限界値以下
ウメ	7	(2)	2 （最大値 6.0Bq/kg）	5

6月30日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表4）のとおりです。

（表4）出荷制限及び出荷自粛品目（6月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限 （7品目）	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらめ（野生のものに限る）
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
出荷自粛 （1品目）	畜産物	—
	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

（企画部）



海産魚介類の緊急時モニタリング検査結果

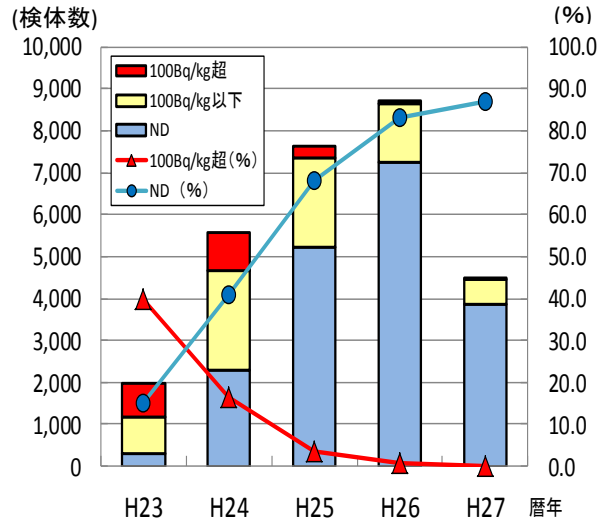
福島県沖で採取された海産魚介類への放射能の影響は、時間の経過とともに着実に低下しています。

平成27年1～6月までにセシウムの食品衛生法における一般食品の基準値である100Bq/kgを超えたものは4検体で、全体の0.1%でした。

なお、3月7日以降に採取された海産魚介類で基準値の100Bq/kgを超えたものはありませんでした。

平成23年以降のモニタリング検体数と割合

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	574	3,869	4,447
	割合(%)	0.1	12.9	87.0	100.0
計	検体数	2,065	7,373	18,924	28,362
	割合(%)	7.3	26.0	66.7	100.0



※採取月日で集計
(水産事務所)

いわきの情報をお知らせします！

福島県いわき農林事務所

いわき市平字梅本15番地(福島県いわき合同庁舎3F)
TEL.0246-24-6197 FAX.0246-24-6196

mail kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/

Q いわき農林事務所

検索

ふくしま・地域産業6次化の 商品を紹介しませう！

今月号は、福島県が発行した「ふくしま・地域産業6次化商品カタログ(※)」に掲載されている、いわきの農産物を使用して作られたブルーベリージャムとポイセンベリージャムをご紹介します。

このジャムは、大和田自然農園さんが原材料のベリーやレモンを農薬や除草剤を一切使わずに育て、これらを使用して、ひとつひとつ手作業で造っています。また、ジャムに使用される砂糖は、北海道産ビートを使い、安全でおいしいジャム作りをこだわっています。

農園で販売されているほか、インターネットからも購入できますので、ぜひ丹精込めて作られたブルーベリージャムとポイセンベリージャムをご堪能ください。

※カタログに掲載されている商品は、

「ふくしま6次化情報STATION」

(URL <http://6jika.com/>)をご覧ください。



●ブルーベリージャム

果肉ゴロゴロ、フレッシュなブルーベリーのおいしさがギュッと詰まったジャムです。(税抜価格500円)



●ポイセンベリージャム

ポイセンベリーを丁寧に裏ごしし、出てきた果汁を煮詰めて瓶詰めするため、ベリーの爽やかな香りと酸味が味わえます。(税抜価格500円)

大和田自然農園—ブルーベリー狩り情報



- ◆開園期間 7月1日～8月末まで
- ◆開園時間 9:00～15:00
- ◆いわき市好間町北好間字桜下30
- ◆TEL.0246-36-2591
- ※お出かけの際は、事前にお問い合わせください。

ジャム販売中!ジャム作り体験も受付中です!

通販 <http://www.goto-chi.com/seisansya/ohwada.htm>

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(8月は8日(土))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。
なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。
また、営業日(メニューの実施日)については、事前にご確認ください。

○ 北の屋そばや(植田町)

《地産地消メニュー》天ざるそば、ぶっかけそば・うどん、天ぷらごはん

《説明》福島県産の食材をできるだけ多く使用しています。

《店舗からの情報》平日は、得々献立(ランチ)を実施しています。

《店舗の連絡先》

住 所:いわき市植田町本町1-10-1

電話番号:0246-62-4752

《地図》



《店舗の写真》



(北の屋そばや)

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1) モニタリング情報検索
 - (2) 出荷制限等一覧表



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース